

教 育 研 究 業 績

2019年5月1日

氏 名 香取 早苗

学 位 修士 (文学)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
学校心理学、非行臨床	スクールカウンセリング、学生相談、いじめ、不登校、非行、思春期の親子関係	
主要担当授業科目	(学部) (大学院)	臨床心理学実習Ⅰ・Ⅱ、スクールカウンセリング入門 教育分野に関する理論と支援の展開、臨床心理実習Ⅰ・Ⅱ、心理支援実習Ⅰ・Ⅱ
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
①教育分野に関する理論と支援の展開	2018年 4月～9月	大学院生を対象に教育分野に関する心理支援の実際を事例を多く取り入れ講義を行った。
②カウンセリング特論	2018年 4月～9月	大学院生を対象にヘルピングスキル、マイクロカウンセリングの技法を基にカウンセリングの基本技法を講義した。
③臨床心理学実習Ⅰ	2018年 9月～3月	大学生を対象にピアヘルパー認定試験合格のために必要な知識や技法の講義を行った。
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価	2018年7月	「教育分野に関する理論と支援の展開」の授業アンケートでは、「自分がSCとして働いたときに行かせるようなスキルやヒントを沢山得ることができた」、「事例を多く取り上げていただけ、分かりやすく理解できた」等の感想があり、大学院生から高評価を得た。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
① 沖縄女子学園 (少年院) 法務教官	1994年4月～ 1996年3月	① 法務教官として2年間勤務した。少年院送致となった14歳以上20歳未満の女子少年に対して矯正教育を行った。生活指導では内観療法やロールレタリングを通して自分が犯した罪について内省を深めたり、家族とのわだかまりを整理したりするのを支援した。また、心理劇やSSTを通し出院後の生活をイメージさせ、非行仲間からの誘いを断る練習などをし、

		再犯防止の教育を行った。薬物乱用防止や性非行防止の教育を行った。職業補導では職業適性検査を実施し、販売士資格取得の指導を行った。教科教育では社会と体育を担当した。少年簿を基に個別的処遇計画の作成に携わった。	
② 関東学院女子短期大学 学生相談室カウンセラー	1998年4月～ 2003年3月	② 学生相談室カウンセラーとして5年間勤務した。学生の相談にあたりとともに教員へのコンサルテーションを行った。校医（精神科医）と定期的にケースカンファレンスを行った。主な相談内容は対人関係、学業、進路、精神疾患についてであった。新入生オリエンテーションで一方通行のコミュニケーションの弊害を体験してもらうエクササイズを実施し、学生生活適応の促進を図った。新入生全員に性格検査を実施し、希望者に結果を面接しながら伝えた。	
③ 浦安市立美浜中学校 SC	1998年4月～ 2000年3月	③～⑩ 公立の小学校4校、中学校4校でスクールカウンセラーとして勤務した。児童生徒、保護者からの相談にあたりとともに、教員のコンサルテーションを行った。小学校では母子分離不安による登校渋り、発達障害、友人関係、虐待、夜尿症の相談が多かった。中学校では不登校、発達障害、非行、反抗、虐待、友人関係、異性関係の相談が多かった。不登校のケースでは教員と共に家庭訪問をしたり、教育委員会から派遣のハートフルフレンドを活用したりした。児童相談所や警察、医療機関と連携して関わるケースもあった。保護者や教員対象の研修会、講演会の講師を務め、子どもの理解と援助についての知識や方法を提供した。	
④ 厚木市立緑ヶ丘小学校 SC	2000年4月～		
⑤ 大和市立草柳小学校 SC	2001年3月		
⑥ 横浜市立大道中学校 SC	2001年4月～		
⑦ 横浜市立浜中学校 SC	2001年12月		
⑧ 平塚市立神田小学校 SC	2003年4月～		
⑨ 平塚市立相模小学校 SC			
⑩ 開成町立文命中学校 SC	2004年3月		
⑪ フェリス女学院中学校高等学校 SC	2008年5月～ 2018年3月		⑪ 私立中高一貫校のスクールカウンセラーとして10年間勤務した。2014年からは週4日、一日7時間という常勤に近い形で勤務した。生徒、保護者の相談にあたりとともに、教員へのコンサルテーションを行った。主な相談は不登校、学業、進路、友人関係、親子関係、精神疾患であった。新入生全員に相談室見学と利用案内をし、予防的援助を行った。また、友達作りのきっかけとなるよう二人で絵を完成させるワークを実施した。保護者対象の講演会の講師を務めた。相談委員会といじめ防止対策委員会に所属し、教員とチームで生徒の支援を行った。
5 その他			特記事項なし

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許 高等学校教諭一種免許（公民） 臨床心理士 学校心理士 公認心理師	1994年3月 2000年4月 2019年1月 2019年2月	茨城県教育委員会 平六高一第222号 日本臨床心理士資格認定協会 第7672号 一般社団法人学校心理士認定運営機構 第225720号 一般財団法人日本心理研修センター 第432号
2 特許等		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項 (講演活動)		
① 普通学級に在籍する特別な支援が必要な生徒への対策 —発達障害の視点から—	2003年8月 2003年10月	開成町立文命中学校 教員研修会講師 平塚市立神田小学校 教員研修会講師 通常の指導では難しいと感じる生徒への適切な指導法を探る際に発達障害の視点が役立つことを教員対象に講義した。注意の持続が困難な生徒、多動、衝動性が高い生徒にはADHDの子どもへの関わりが参考になる。学習でつまづいている生徒にはLDの子どもへの関わりが参考になる。通常級に在籍することの多い広汎性発達障害の子どもへの関わり方も講義した。
② 相談室で出会う子どもたちから学ぶ子育てのヒント	2003年11月	平塚市立神田小学校 家庭教育学級講師 スクールカウンセラーとして出会う小学生との関わりを通して必要だと感じた子育てのポイントについて保護者を対象に講義した。食事・睡眠・快便の大切さ、子どもは子どもの中で育つ、一人っ子の子育て、きょうだいがいる場合の留意点、小さい頃から性教育できる明るい家庭を、という話題で講義した。
③ 進路決定に際しての親の関わり方	2010年9月	フェリス女学院高等学校2年生 保護者会講師 子どもが大学受験の志望校を選んだり、将来の進路を選んだりする際に気を付けておきたい親としての心構えを高校二年生の保護者を対象に講義した。志望の進路を親に認めてもらえずに悩む子、親の期待が重く苦しむ子等、スクールカウンセラーとして出会う事例を紹介しながら講義した。
④ 中学二年生の心理	2013年6月 2015年6月	フェリス女学院中学校2年生 保護者会講師 フェリス女学院中学校2年生 保護者会講師 中学校での自分の立ち位置（成績はどのあたりか？友人関係で

<p>⑤ 思春期の親子関係</p>	<p>2017年6月</p>	<p>はどのような役回りか？先輩との関係等）が見え始め、疲れが出てくる頃である中学2年生の心理について保護者を対象に講義した。また、大人びた部分が出てきたかと思うとまだまだ子どもっぽい部分もある関わりが難しい時期の子どもへの関わり方を講義した。</p> <p>フェリス女学院中学校3年生 保護者会講師</p> <p>思春期には親子関係のあり方もこれまでとは違ってくる。親が子どもを導くといった上下の関係から徐々に対等な関係へとシフトしていくイメージでいると良いことを保護者を対象に講義した。また、親よりも友達となる思春期の心理についても解説した。思春期の子どもの変化を楽しむ視点をもつていただくことをねらいとした。</p>
<p>⑥ 思春期の子どもとの関わり方 — 子どもの自立を促す関わり —</p>	<p>2017年9月</p>	<p>フェリス女学院中学校高等学校 奨学会講演会講師</p> <p>子どもの精神的不調に気づくにはどうしたらよいか？子どもの友達関係にどこまで介入してよいものか？大学受験についての親の心得は？など、思春期によくある相談を紹介し、思春期の子どもとの関わり方を講義した。また、アドラー心理学を紹介し、子どもの自立を促し、親自身も子離れを意識した関わりについて講義した。</p>
<p>4 その他</p>		<p>特記事項なし</p>

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 普通の子がふる う暴力 いじめ・暴力 の心理と予防・指導法	共著	1998年6月	教育開発研究所	第11章 いじめの影響 いじめの被害者はその後、長期にわたり いじめの影響を受けている。いじめの影響 にはマイナスの影響（不登校、自殺、非行、 精神的・身体的症状）とプラスの影響（他 者尊重、精神的強さ、進路選択への影響） がある。いじめのマイナスの影響を低く し、プラスの影響を高くする方法としては 信頼感を回復する体験をしたり、いじめら れた体験についての心の整理をしたり、い じめられた体験をプラスに考えたりする ことが有効である。 担当頁：P88～P96 編著：松原達哉 執筆者：山崎洋史 楡木満生 松原由枝 中里敦 会沢信彦 田中將之 相馬誠一 宮崎圭子 <u>香取早苗</u> 岩瀬章良 橋本治 兵頭啓子 繁田千恵 田下弘道 木村誠 之助 佐藤敏彦 黄綿昶行 川船眞義 尾崎節子 高塚雄介 上地安昭 神村栄 一 下司昌一 金盛浦子

著書、学術論文の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 1 過去のいじめ体験による心的影響と心の傷の回復方法に関する研究	単著	1999年	日本カウンセリング学会 カウンセリング研究 32 (1) 1~13	大学生・短大生を対象に質問紙調査を行い、過去のいじめがその後どのように影響しているかについていじめの役割間で検討した。「被害者」と「被害者かつ加害者」との大きな違いは「情緒的不適応」の高さであった。「傍観者」は「被害者」や「被害者かつ加害者」と同様に同調傾向が高かった。いじめの被害者間でもいじめの影響に違いがあり、その要因の一つにいじめによる心の傷の回復方法の違いがあることが示唆された。
(学会発表) 1 いじめの影響—マイナス面とプラス面の両面から—	単著	1998年7月	日本教育心理学会第40回総会(北海道大学)	大学生・短大生を対象に質問紙調査を行い、過去のいじめがその後どのように影響しているかについてプラスとマイナスの両面から検討した。いじめ影響尺度の因子分析の結果からいじめの影響には「情緒的不適応」、「同調傾向」、「他者評価への過敏」というマイナスの影響と「他者尊重」、「精神的強さ」、「進路選択への影響」というプラスの影響があることが示唆された。
2 学生相談室の広報活動における試みに関する一考察：新入時エクササイズの導入と相談室利用との関係	共著	2000年9月	日本教育心理学会第42回総会(東京大学)	学生相談室の広報活動として新入生を対象に対人関係に関するエクササイズを導入した。来室者の大幅な増加は見られなかったものの、ふり返しシートから新入時のエクササイズは学生生活への適応を促進するものとして有効なことが示唆された。 共著者：香取早苗・石田多枝子・池田淑美
3 スクールカウンセラーによる高機能自閉症児への支援	単著	2002年8月	日本カウンセリング学会第35回大会(目白大学)	スクールカウンセラーとして関わった通常級に在籍する高機能自閉症児への支援について報告した。スクールカウンセラーと教員、保護者との協力体制づくり、教員への支援、クラスメートとの関わりについて考察した。